

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（明徳幼稚園）

教育目標

人と共に、生き生きとたくましく遊びや生活を楽しむ子ども
豊かな感性としなやかな心をもつ 子ども を育む
～自ら学ぶ力、自ら律する力の育成～

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>本園は温かで安定した家庭環境で育っている子どもたちが多く、保護者間も自分の子どもだけでなく他児の成長も共に喜ぶ関係性ができている。</p> <p>そのような中で、教職員が子どもの実態を共有し、協力しながら、遊びの様子や一人一人に応じた環境構成や援助を図ってきた。1年を通して、子どもたちが自分のやりたい遊びを十分に遊びこむ中で、協働性や思いやり、意欲や粘り強く頑張る力などについて、育ちや成長がみられた。</p> <p>また、幼保小架け橋プロジェクトにより、今年度は教員間の共同研修の機会をさらに充実し、互いの教育の理解を深めることができ、交流の機会がもてたことにより、子どもにとっても見通しがもてる機会とったなり、就学への安心感につながった。</p> <p>次年度は、さらに本園の強みである自然環境を生かしたり、ＩＣＴの活用を広げたりしながら、地域にも幼児教育の発信をしてきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児教育について、地域へ積極的に発信していってほしい。・運動会や生活発表会での子どもの姿が生き生きとしていた。また保護者が温かく見守り、園に協力的であることがうかがえた。これからも家庭との連携も大切にしていってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月28日	学校運営協議会
最終評価	3月10日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・家庭・教師・友達・異年齢・小学校・地域の方などとのつながりを支える中で、“自らつながろうとする子ども”や“豊かな心”的育成を目指した教師の援助や環境構成について考える。
- ・明徳小学校と“安心感”“つながり”“対話”的キーワードをもとに話し合うことで、育ちの共有や接続を図ったり、架け橋期の大きなポイントとなる学校行事（半日入学・入学式など）の内容や環境について一緒に話し合い、実践しながら検証したりする
- ・子ども同士で考え、工夫して発展させられるような、仕掛け作りをする。
- ・子どもたちが“つながりたい”と感じた瞬間を大切にし、橋渡しをしながら支えたり、身近な

人とつながるからこそその楽しさや心地よさが感じられるように言葉かけしたりする。

- ・思わず関わってみたくなる環境をつくり、子どもたちが自ら環境に関わる中でどのような心の動きや育ちが見られるかについて探ったりする。
- ・人・もの・こととの“つながり”を意識しながら一人一人の姿を見取ったり、“つながり”が豊かになっていくように支えたりする。

(取組結果を検証する) 各種指標

○日々の子どもの姿についての情報共有、記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価、教育課程の見直し

○アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」「子どもは友達と関わることを楽しんでいる」など

中間評価

各種指標結果

・アンケート項目「子どもは自分の思いを素直に出そう落としている」、「子どもは自然とかかわりながら遊ぶことが好きである」についてはともに「そう思う」、「大体そう思う」を合わせて98%、「子どもは友達とかかわりながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる」については、95%と高い数値であった。

・週案での評価が、次の保育につながるようなえり振り返りをしている。

自己評価	分析 (成果と課題) 年度当初より「環境（人、もの、こと）とつながる中で、豊かな心を育むための教師の援助や環境構成について考える」というテーマを設定し、人的、物的環境を検討してきた。またそのような視点で子どもの姿をみると努力してきた。また、園内の豊かな自然環境を生かした季節感の経験やその時々の子どもの興味関心に沿った経験になるよう検討してきた。しかし、今後は環境の質を高めていくためにより教員同士の連携が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 子どもの遊びの興味や生活をしっかりと見とり、ねらいをもち、育てたい姿につながるよう教員間の情報共有を大切にし、環境や援助についてしっかりと検討していく必要がある。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・園内研究会での事例検討や行事の反省会　・アンケート項目　　・週案の評価
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもが生き生きと遊んで過ごせるよう、今後も日々の教育を充実させていってほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・アンケート項目「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」は「そう思う」、「大体そう思う」を合わせて100%、「子どもは、友達と関わりながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる」「そう思う」、「大体そう思う」を合わせると96.8%といずれも高い数値であった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・週案での評価を重ね、次週の教育活動に生かしてきた。 ・園内研究や行事の持ち方については、教員間で話し合いながら、発達に応じた取組を検討してきた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものも思いや、やりたいことを受け止めながら環境構成を考えるとともに、発達に必要な経験ができるような教材についても研鑽してきた。 ・「環境（人、もの、こと）とつながる」という視点で、言葉かけや援助など教師の関わり方について、一人一人の子どもの育ちにつながるように考えてきた。 ・園内環境、教育環境を整え、教員も子どもも必要な、経験を重ね、力がついてきたと思われる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた育ちにつながるような遊びの充実を考えるための教員間の連携をより充実させていく必要がある。 ・ＩＣＴの教育活動での有効な活用について、研修を深めていきたい。

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と計画的に、子どもの交流活動や教員の研修を行う。 ・子どもの交流においては、互いの学習や遊びを尊重し、活動内容や場の工夫を行う。その時に、互いのめあてを共有し、子どもの学びや育ちを保障する交流活動になるよう配慮する。 ・公開保育や研究授業を互いに参観し、幼小の特性を学びあい、架け橋期のカリキュラム作成に反映させる。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 架け橋プログラムでの協議、合同研修、幼小での授業、保育参観の回数や協議の内容など ○ 架け橋期のカリキュラムの作成についての進捗状況 ○ 近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応 ○ 地域の他の幼児教育施設との横のつながりの実践 ○ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と年度当初から計画的に進めていたことで、小学校での研究授業参観・研究協議への参加、夏季合同研修として幼稚園の実践事例研修会と架け橋プログラム研修、幼稚園の公開保育による参観・研究協議等を実施することができた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の事例研修会や公開保育、それぞれの研究協議会には、小学校教員が全員参加していたので、幼児教育について理解していただける機会となった。 ・小学校の研究授業やきょう ・架け橋プログラムによる実践が、幼児教育施設間の連携の足掛かりとなるような取組を探って

	<p>いきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の研究授業への積極的な参加、半日入学等の合同検討会の実施、学習発表会見学、給食交流などの計画及び実施などを通して、互いの教育への理解を図り、架け橋期の子どもの育ちをつなぐ協議を実施していきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>授業、保育の参観、研究会への参加、交流計画、アンケート項目“小学校との連携” “読書ノートの活用”について。</p>
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携は大切な取組である。積極的に進めていってほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の研究授業、研究発表会、研究協議に参加したことで、小学校の授業で目指されていることや求められていることの一端を垣間見ることができた。 ・半日入学の形態を昨年度は幼小で検討したが、今年度は近隣の保育園も参加され、合同で検討できた。 ・給食体験や交流授業なども幼保小で進め、実施することができた。 ・アンケート項目「小学校との連携は就学への安心感につながっている」は、「そう思う」、「大体そう思う」を合わせて 68%、「わからない」が 32% であった。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の研究授業、研究会、研究協議に参加できしたこと、小学校の尽力により給食体験や保育園とともに交流授業が実施できたことは大きな前進である。 ・小学校教育については、より理解を深める必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育施設の横のつながりを発展させていく必要がある。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の連携は、系統立てた教育という視点で大切である。次年度も継続してさらに充実していってほしい。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と預かり保育担当教員が子どもの心身の状態について引継ぎ、緊密に連携をとる。 ・時期や季節に応じた玩具や遊びの環境を整え、子どもが安心して、ゆったりとした気持ちで充実して過ごすことができるようとする。
--	--

- ・未就園児3歳児クラスの子どもについて、安心感が持てるよう、子育て支援、預かり保育両担当の連携を密に図る。
- ・早朝及び未就園児3歳児の利用制度について地域への周知を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

○預かり保育参加人数

○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。

○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

中間評価

各種指標結果

- ・「預かり保育は保護者にとって有効である」については、97%が「そう思う」と回答され「大体そう思う」を合わせると100%となる。「預かり保育に喜んで参加している」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、89%となり高い数値となっている。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・未就園児3歳児の預かり保育は定着し、就労支援として利用されている。
- ・保護者支援としては有効であることが数値からわかる。
- ・子どもにあっても喜んで参加しているかという点では、概ね高い数値であるが、参加することに抵抗があったり不安定になったりする子どももある。預かり保育の教材や活動内容を見直し、子どもが楽みな気持ちを抱きながら参加できるようにしていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもが安心して預かり保育に臨めるように、担任と担当教員の連携を密に図るとともに、預かり保育での教員の体制や望ましい子どもとの関わり方についての研修など必要である。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。
- ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」など

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・預かり保育は先生方が大変だが保護者にとって必要になってきている。子どもの負担にならないような利用の仕方が望ましいと思う。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・「預かり保育は保護者にとって有用である」については、94%が「そう思う」と回答され「大体そう思う」を合わせると100%となる。「預かり保育に喜んで参加している」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、90%となり高い数値となっている。「あまりそう思わない」が6%（2名）あった。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・今期も同様に保護者支援としては有用であることが数値からわかる。また、大多数の子どもが喜んで参加していることもわかる。数値は低いが、あまり喜んで参加できていない子どもについては要因を探たり支援をしたりする必要がある。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児 3歳児は、長時間にあると参加する際に不安定になることがある。担当教員と連携を密に図り、安心して参加できるように支援していくことが必要である。一人一人の様子についてもより細やかな連携をしていきたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化により、幼稚園が就労支援という大切な役割を担っていることがわかる。子どもにとってはできるだけ安心して参加できるようにしていってほしい。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児クラスと在園児クラスとの交流の機会をもち、園の教育への理解や発信につなげる。 異学年の交流を大切にし、安心して過ごしたり、刺激をもらったりしながら生活や遊びが充実できるようする。 保護者の子育てに対する不安や悩みなどを丁寧に受け止め、共に具体策を考え、保護者の安心につなげる。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業への登録、参加人数の推移。 ○子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。 ○保護者の意見。
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援事業への登録者数は昨年度よりも減少している。 地域の保護者に対して、子育てについての相談の機会としては有効であると感じる。 今年度新たな体制となった社会福祉協議会とも連携し、定期的に子育て相談日を設定している。
自 己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援クラスの参加者には、園の保育の様子を目にする機会となり、園の教育への関心につながっている。 地域の子育て中の保護者にとってはマイ幼稚園の登録により身近な施設となっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援事業の実施についてより地域に広められるよう有効な発信方法について検討したい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録人数、参加人数、保護者の声等
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学区内には、子どもも減少してきたのではないか。社会福祉協議会とも連携しているので安心して子育てできる支援をしてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・後期の登録者数は全般的に余り増加しなかったが、年度末にかけて次年度の未就園児 3 歳児クラス対象の登録は増加した。	
・冬の時期は寒さや降雪のためか、登録していても実際参加する親子は減少していた。親子製作の日は比較的参加者が多かった。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・参加者にとっては、交流や子育てについて相談できる場となっていた。・地域の子育て支援としてできるだけ活用してもらえるよう、広く伝えていく必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・登録者、参加者を増やすために新たな魅力的なイベントを企画していきたい。・インスタグラム、ホームページなどで積極的に発信していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・未就園児クラスで毎月、社会福祉協議会の子育て相談日を設けているので有効活用してほしい。地域に発信する広報には掲載してあるので、活用できるよう働きかけていきたい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

(具体的な取組)	
・岩倉地域自然ボランティアに地域の生き物について教えてもらったり、畑の先生に栽培物の植え方や育て方を教えてもらったりすることを通して、自然に关心をもてるようになるとともに、地域の方とつながる喜びを感じられるようにする。	
・自治連、運協と連携し、地域にも園の教育について発信する機会をもつ。	
・お茶会、田んぼ等の園行事、子育て支援の取組等で地域の方のお力を頂き充実を図る。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見	
○京都岩倉自然学習ボランティアのお力による取り組みの充実と、子ども、保護者の関心度や変容、研究の充実。	
○アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会 どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など	

中間評価

(各種指標結果)	
・運営協議会理事やPTAにご協力いただく行事、PTA主催の行事については、今年度も積極的に企画され実施されている。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会理事のご協力による行事が今年度も滞りなく実施できた。本園ならではの田んぼ遊び、お茶会では親子で伝統文化に触れる機会となった。・PTA主催の行事にもおやじの会は積極的に参加していた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会による園児との交流事業等が、今年度、5年ぶりに復活し、地域に親しみをもてる機会となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催の行事へのおやじの会の参加は積極的であった。今後もPTAやおやじの会の在り方、より負担のない運営の方策を検討していく必要上がる。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」など

学校
関
係
者
評
価

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事で、“親子お茶会”は学校運営協議会理事の方に、また岩倉自然学習ボランティアの方に“自然の日”など地域の方のお力添え取り組みができた。自然については、保護者向けにも家庭教育講座を開催していただいた。 ・PTA主催でおやじの会共催のイベントが開催できた。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催でおやじの会共催のイベントは子どもたちが楽しむとともに、保護者同士の連携や親睦を深める機会となった。 ・伝統文化や自然についての興味関心を深める機会となった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAやおやじの会の活動は、その年度ごとに負担の内容に見直していきたい。 ・引き続き、学校運営協議会理事の方やボランティアの方との連携を密に図り教育活動に生かしていきたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会としては、引き続き協力していきたい。

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の充実を図るための働き方改革に対する教職員の更なる意識改革を図る。 ○教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、教職員の連携を密に図り、校務支援員を有効活用しながら、働き方改革を推進する。 ○課題の洗い出しと共に、働きがいのある職場環境を整えていく。
--	--

具体的な取組

- ・教職員一人一人の職務充実と健康保持のための意識付けを強化する。
- ・教職員全体での連携の元、校務支援員を活用しながら仕事の効率化を図り、働き方改革を推進し、教育の充実、教職員の健康保持増進を図る。
- ・会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。
- ・電話対応時間を18時までとする。
- ・水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 教職員の超過勤務時間の実態把握や年休取得率。
- 校務支援員を初めとする教職員間の連携により改善できた業務内容。

中間評価

各種指標結果

- ・校務支援員を効率よく活用し、業務の振分けをしていった。超過勤務時間は比較的少なくなった。
- ・会議のペーパーレス化を進めており、資料作成、修正等の時間が短縮され、効率が上がっている。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・超過勤務は減少してきているが、行事前などは、さらに見通しをもって効率化を図っていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・行事前などは、さらに見通しをもって効率化を図っていきたい。
- ・今まで以上に教職員も心身とも良好な状態で子供と向き合えるよう教育現場に立てるよう、年休。時間休の取得を推進していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 長時間勤務の時間数
- 年休取得日数

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・現場が忙しいのはわかるが先生方も元気に働く現場であるよう、働き方改革を継続していくほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・校務支援員による業務分担はかなり有用である。
- ・超過勤務の時間数の増加はしていない。
- ・教員は年休を冬期休業中に取得しているが、期間が短く預かり保育があるため、取得率は低かった。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・教員の業務は校務支援員で分担されているのでかなり削減されていると感じる。
- ・年休取得は長期休業中に偏るが、管理職は取得しにくい。
- ・管理職の業務の軽減は困難である。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・校務支援員による業務分担はより効率的、計画的に実施していきたい。・Team sなどを有効活用し、さらに会議や業務の効率化を進めたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・働き方改革を推進することにより、教員がゆとりをもって教育活動に従事することができる。そのことが子どもの教育にも還元されていくと考える。引き続き働き方改革を推進していってほしい。